

5 歳児クラス <9月 モネ「黄昏」>



やさしい K-ART

テーマ《モネ「黄昏」ワーク》

大運河、聖堂、金色の空。この3つだけという
大胆な構図で運河に浮かぶ都市ヴェネツィアを
表現しましょう！

<テーマを決める>

空の色って何色だろう？「空は何色？」って聞かれたら、「青！」って答える人が多いよね。でも、朝の空、昼の空、夕方の空を見てみると、本当にずっと同じ色かな？夕方になると、青かった空が黄色やオレンジ、赤や紫に変わっていくことがあるよ。しかも、その色は一つずつ分かれているのではなく、少しずつ混ざり合っているみたい。

モネという画家は、そんな一瞬一瞬で変わっていく光や空の色をよく観察して絵にしました。

「空にはいくつの色があるんだろう？」

「色と色が重なったら、どんな色になるんだろう？」

モネの《黄昏》を見ながら、変わっていく空の色を探して、自分たちでも表現してみよう。

<問いを考える>

8月のSKYは「空にはどんな空？どんな雲がある？」という空の観察でしたが、今回はモネの作品を通じてさらに一段掘り下げて、「光によって色はどう変わる？」とします。

「空って本当に青だけかな？」「夕方の空を見たことある？何色だった？」

「青から夕焼けになる途中は何色だろう？」「モネの空には何色あるか探してみよう！」

「青と黄色が重なっているところは何色？」「夕日の色は、水にも映っているかな？」

「同じ景色でも朝・昼・夕方で色は変わると思う？」

「今日の夕方、本物の空も見よう。何色見つけられるかな？」

<環境をデザインする>

夕暮れの空には一つではなく、青・緑・黄色・オレンジ・赤など、さまざまな色が重なっていることに気づけるよう、モネの《黄昏》と空の見本を用意する。

黒画用紙の上にキットパスでたくさん色を「クルクル」と重ねることで、「色と色が重なるとどうなる？」を実際に試しながら、夕暮れの空の変化を表現できるようにする。

さらにベビーパウダーで磨くことで、重ねた色がやわらかくなじんでいく変化も体験する。海や建物はあらかじめパーツとして用意し、細かな形を描くことなく、「光」「色」「色の重なり」を観察し、表現することに集中できる環境をつくる。



1. フレーム
2. キットパス
3. ベビーパウダー
4. スティック糊
5. 黒画用紙（目安線入り）
6. 海パーツ
7. 見本空パーツ

5歳児クラス <9月 モネ「黄昏」>実施報告



9/18【アンジェリカ保育園 芝浦園】年長：4名《クロードモネ「黄昏」》

8月に実施した光の透かし絵「SKY」の話をした後、モネの黄昏を見せると「わあ〜！」と歓声があがりました。「この空はいつの空かわかるかな？朝かな？夜かな？」と問いかけると「夕方！」と絵の雰囲気を感じ取り取っていました。

制作では、上から順に空をクルクルと塗ります。今までキットパスを指で伸ばすことが多かったのですが、今回は指で伸ばさず、キットパスを上から重ねて塗ることでグラデーションを表現します。説明をしっかりと聞き、見本もよく見てすごく集中してクルクルと色を重ねていました。たまに遠くから見たりして、「赤が足りないなあ」「緑と黄色をもっとグラデーションさせなきゃ！」など言いながら塗りたい色を追加して塗ったり、ものすごく前向きに取り組んでいました。完成してフレームに入れた自分の作品を見て、「やったー！キレイ！」「本物みたい！」とすごく嬉しそうでした。